

辺野古通信

第55号 2017年1月4日

日比谷野外音楽堂に 3900 人 (12/10)



厚木基地にオスプレイ配備撤回を申入れ(12/22)

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

オスプレイ配備撤回！最高裁判決糾弾！辺野古埋立てを許さな！

■12/28 に真珠湾を訪問した安倍首相は米国への感謝の言葉を連ね「和解の力」を強調し日米同盟を「希望の同盟」と讃えた。そしてオバマとの会談で「辺野古が唯一」と確認することを忘れなかった。この場面には既視感がある。一昨年4月の米国上下両院演説の繰り返しだ。「沖縄の軍事植民地化なくして『希望の同盟』は成り立たない」という訳だ。安倍政権支持率60%。ヤマトの圧倒的な無関心がその軍事植民地化政策を支えている。2016年はそのことを浮き彫りにした一年だった。■12/13 夜間低空飛行で給油補給訓練中のMV22 オスプレイが大浦湾の北側安部集落から約800m、国道のすぐ脇の浅瀬に墜落した。さらに一緒に訓練中の同機種の一機が普天間基地で胴体着陸事故を起こした。連日の住宅地上空のつりさげ訓練や夜間低空飛行訓練で、高江や辺野古、宜野座、金武町などの住民の間で墜落の不安が募っていた矢先だ。これでも日米両政府は辺野古・高江・伊江島を結ぶオスプレイの一大訓練拠点づくりを進めようというのか。絶対に認めることができない。12/19 事故原因もはっきりしないまま、MV22 オスプレイの飛行訓練は全面再開された。(2頁参照) どこまで沖縄の人々の命と暮らしを軽んじるのか！■

12/20 最高裁第二小法廷は、一度も弁論の機会を設けることなく、わずか3ヶ月のスピード審理で、でたらめな高裁判決を追認した。(3頁参照) 翁長知事は最高裁に対する「失望と憂慮」を表明し、「今後も県民と共に辺野古に基地をつくらせないという公約実現に向けて全力で取り組む」と語ると共に、12/22のまやかしの「北部訓練場返還式典」の出席を見合わせ、同日夜に名護市内で開催されたオスプレイ撤去を求める緊急抗議集会に参加し4200人の人々と共に怒りの声を上げた。

■12/26 翁長知事は最高裁判決を受けて昨年10月の埋立て承認取消処分を撤回、仲井眞前知事の埋立て承認が復活した。12/27 沖縄防衛局は辺野古の埋め立てに向けた作業を再開した。■防衛局は高江のN1、G、H地区の4基のオスプレイパッドを「完成した」と嘯いているが、連絡道路や訓練ルートも含めて未整備な部分が多く工事は続く。翁長知事も名護市長も「あらゆる権限を行使して辺野古に新基地は作らせない」としている。本格的な攻防はこれからだ。引き続き、現地座り込みに駆けつけよう！1.27 映画会へ！

■辺野古・高江カンパは累計2,096,070円(12月31日現在)。引き続きカンパを！
郵便 00210-0-2021 沖縄連続講座

『高江一森が泣いている2』上映&現地報告会

1月27日(金) 昼の部 14時と夜の部 18時半

■森の映画社 2016年11月製作、カラー63分

高江ドキュメント第2弾。2016年秋の高江現地の攻防を描く。

■会場：神奈川公会堂2階1号会議室(JR東神奈川駅、京急仲木戸駅徒歩4分)

■入場料：500円 84席(先着順)

■主催：沖縄の自立解放闘争に連帯し反安保を闘う連続講座

■協賛：島ぐるみ会議と神奈川を結び会/基地撤去をめざす県央共闘会議/自治労横浜

恐れていたことが起こった、オスプレイは欠陥機だ！飛行訓練を中止せよ！

12/13 の普天間基地所属 MV22 オスプレイの墜落事故は、昼夜を問わないオスプレイの激しい飛行訓練に日常生活を脅かされていた沖縄の人々に大きな衝撃を与えた。12 月上旬には宜野座村の住宅地上空での吊り下げ訓練が問題となっていた。墜落場所は名護市東沿岸安部集落の近くの国道沿い、住民が潮干狩りをする浅瀬の海岸だ。この事故現場から普天間に帰還したもう 1 機も胴体着陸事故を起こしていた。日米両政府は「不時着水」などと事故を軽く見せようとしているが、米海軍安全センターがクラス A の重大事故と認定、米国防研究所の元オスプレイ主任分析官レックス・リボロ氏は「明らかに航空機が完全に破壊されたことによる墜落事故だ」と断定、「ヘリモードで給油できないこと」を新たな構造的欠陥とも指摘している（12/16 琉球新報）。欠陥機オスプレイの危険性が改めて立証された。稲田防衛相も安倍首相も「原因究明まで運航中止を米側に要請した」と言明した。ところがまだ機体の回収作業が終わらない 12/19 午後 2 時、米軍は空中給油以外の飛行訓練を再開し、日本政府もこれを追認した。実は飛行再開直前に、嘉手納基地で P8 哨戒機がクラス A の重大事故を起こしていたことが後日判明した。オスプレイ飛行再開に支障が出ることを恐れた米軍が事故の事実を一時的に隠蔽したのだ！墜落事故現場では米軍が県警機動隊に指示して規制線を敷いてマスコミや名護市長、市民を現場から排除、海上保安庁からの事故調査要請も無視して捜査・



回収作業を独占した。そして事故翌日に安慶田副知事から抗議文を受け取った際に「彼は沖縄を守った！」と興奮して兵士を擁護した在沖米軍四軍調整官ローレンス・ニコルソンの傲慢な態度—2004 年 8 月の沖国大米軍ヘリ墜落事故現場と同様の光景が再現された。ここに露呈したのは紛れもない軍事植民地・沖縄の現実だ。オスプレイは米空軍横田基地にも 2017 年度から配備が予定され、陸自も 17 機購入予定、陸自木更津駐屯地が定期整備拠点となるとされている。オスプレイが全国を飛び回るという意味でもこれは沖縄だけの問題ではない。共同通信社が 12/17-18 に実施した全国世論調査によるとオスプレイの国内配備を「見直したほうがよい」が 66.8%に上っている。全国各地からオスプレイ配備撤回の声をあげることが必要だ。同時に、小さな島を覆い尽くすように米軍への提供訓練区域、空域、水域が集中している沖縄の飛行訓練の激しさ、その恐怖感に想像力を巡らすことが求められている。

欠陥機米軍MV22 オスプレイ墜落事故に関する抗議決議(12/22)

去る 12 月 13 日、午後 9 時 30 分ごろ、訓練中の米軍 MV22 オスプレイが名護市安部の海岸に墜落、大破する事故が発生した。墜落現場は集落のすぐそばに位置しており、一歩間違えば住民を巻き込む大惨事につながる重大な事故である。さらに同日、午後 11 時 45 分ごろ、同機種の別機が普天間飛行場で胴体着陸する事故が発生していたことも明らかになっており、付近住民の受けた恐怖ははかり知れず、県民に大きな不安と強い衝撃を与えている。また、去る 9 月 22 日に発生した米軍 AV8B ハリアー攻撃機墜落事故や、民間地上空での物資のつり下げ訓練などが繰り返される中、連続して発生した重大事故に、県民の米軍に対する憤りと日米両政府への不信感が一層高まっている。オスプレイについては、騒音・環境問題等に対する不安や墜落への懸念から、日米両政府に対して配備撤回を幾度も求めてきたにもかかわらず、懸念が現実となったことはまことに遺憾である。今回の重大事故に関して、県や地元自治体が関係要路に対して再発防止と原因究明の間、同機種の飛行を中止するよう要請を行ったところであるが、それにもかかわらず、12 月 19 日、米軍が一方的に訓練を再開したことは断じて容認できない。さらに、米軍トップは「県民や住宅に被害を与えなかったことは感謝されるべきだ」などと県民の生命を軽視するような発言をしており批判の声が上がっている。日米両政府においては、県民の過重な基地負担の軽減に向け、真摯に検討・協議を行い実効性のある措置を講じるべきである。よって、本県議会は、県民の生命・財産を守る立場から、今回の事故に対し厳重に抗議するとともに、下記の事項が速やかに措置されるよう強く要求する。

記

- 1 事故原因を徹底的に究明し、その結果を速やかに県民に明らかにすること。
- 2 欠陥機オスプレイの飛行を直ちに中止し、配備を撤回すること。
- 3 普天間飛行場を閉鎖・撤去し、県内移設を断念すること。
- 4 在沖海兵隊を撤退させること。
- 5 ニコルソン在日米軍沖縄地域調整官の更迭を求めること。

上記のとおり決議する。

駐日米国大使/在日米軍司令官/在日米軍沖縄地域調整官/在沖米国防領事宛て

沖縄県議会

訪沖レポート
12/16-19

墜落現場では機体を切断する機械音が響いていた…

12/16 - 19 沖縄講座メンバー数人で訪沖。オスプレイ墜落事故直後、辺野古も高江も怒りの声が渦巻いていた。(報告：K)

12月16日(金)

強風のため少し遅れて昼前に那覇到着。レンタカーを借りて辺野古に向かい、3時少し前に浜のテントで安次富さん(ヘリ基地反対協共同代表)と話をする。でっち上げで不当逮捕された山城さん(沖縄平和運動センター議長)の早期釈放は難しそうとのこと。改めてなりふり構わぬ権力の弾圧に怒りがわく。カンパを渡してゲート前テントに立ち寄り、安部(あぶ)のオスプレイ墜落現場に。規制は思ったほど厳しくなく浜には降りられたが、現場には入れず、墜落により大破した機体を切断する機械音が響いていた。近くには米軍のサルベージ艦、浜では米軍の潜水部隊が海底から回収した残骸を整理。暗くなってきたので辺野古近くの宿舎へ。

12月17日(土)

早朝5時、運転を頼まれていた反対協の宣伝カーで出発し、辺野古ゲート前テントで女性二人を拾って高江へ。7時から北部訓練場ゲート前での集会に参加。参加者は350人。集会では糸数参議院議員や住民の会、参加者などが次々に発言し、最後は全員でゲート前に座り込み、基地を完全封鎖し11時すぎに終了。あわただしく辺野古ゲート前に移動して墜落抗議集会へ。稲嶺市長と沖縄選出の国会議員、県会議員、主催団体代表から日米両政府に怒りを込めた発言が続く。参加者は900人。夕方、名護署に向かい、不当逮捕者激励行動に参加。70人ほどの参加者には昼間の抗議行動に参加した県外参加者も多く、いつもより多いとのこと。警察署正面で30分、裏門で30分の約1時間の行動。東京、大阪などの参

加者もマイクを握り、中に向けて激励の呼びかけ。私とOさんもマイクでの呼びかけに加わる。裏門に後ろ向きで止めていた大阪府警のカマボコが、嫌がらせのようにアイドリングで排ガスを吹きかけてきたため、マイクでやめるように言うがニヤニヤするばかりで、止めようとしな。植民地意識丸出しの行動に怒り心頭、一日もはやく釈放を勝ち取りたいと思う。

12月18日(日)

午前中、まず高江のN1表テントを訪問し、住民の会の女性から現況の説明を受ける。その後裏テントに行き、テント上の林道の提供地域規制線を確認した後、年配の男性から説明を受ける。何回も高江を訪問しているが、初めて聞く話も多く、非常に興味深く聞くことができた。午後は嘉手納の道の駅から嘉手納基地を観察。日曜日のため訓練はないが、多くの軍用機が駐機中だった。

12月19日(月)

オスプレイが訓練を再開するとの情報もあり、まず普天間基地を一望できる嘉数高台に。多くの報道陣がカメラを構え、オスプレイの飛行再開を待機。飛んだら抗議の声を上げようと思っていたが、糸数アブチラガマの見学を予約していたため断念し南城市に向かう。アブチラガマには何回か来ているが、ガイド付きは初めて。丁寧な説明に改めて沖縄戦の悲惨さと軍隊の理不尽さを実感。ガマの入り口付近に、何ともそぐわない旧日本軍の高射砲が堂々と展示されており、非常に違和感を覚える。3時頃にガマを出ると、2時前にオスプレイが訓練を再開したことを知る。日米両政府に再び怒りを感じるとともに、自分の力のなさに無力感も。空港に向かい、7時過ぎの飛行機で沖縄を離れた。明日からも頑張ろう！

高裁判決を追認した最高裁判決 「最低裁！」怒号が飛び交う中を裁判官は壁の中に消えた



12/20 午後3時、最高裁第二小法廷(鬼丸かおる裁判長)は沖縄県の上告を棄却する判決を言い渡した。一度も弁論期日を設けずに不当な9.16福岡高裁那覇支部判決を追認し、国側の主張に司法のお墨付きを与えた。「本件上告を棄却する。費用は被告の負担とする」鬼丸裁判長は主文だけ読み上げると、「不当判決!」「最低裁!」傍聴席からの怒りの声が飛び交う中を判決理由も告げることなく3人の判事とともに扉の奥に消えた。その間わずか数10秒。「三権一体」一高裁判決を批判した沖縄タイムス連載記事の言葉が浮かび、鬼丸裁判長の無表情の顔が稲田防衛相と二重写しになった。最高裁前には200人が集まり不当判決に抗議の声を上げた。18時半からの首相官邸前抗議行動に350人が怒りのシュプレヒコールを浴びせた(写真)。国の主張をコピペした高裁判決を踏襲した最高裁判決だが、1点だけ異なる点がある。高裁判決のように「地理的優位性」「辺野古唯一」にまで言及せずに、前知事の埋立て承認の適法性に絞って判断した点だ。さすがに「司法判断としては踏み込みすぎ」と批判された高裁判決を、直接否定することなく修正したということか。最大の問題は、改正地方自治法で国・県が「対等・協力」関係となって以降初めての違法確認訴訟であるにもかかわらず、国(国交大臣)の関与(是正指示)が適法かどうかという核心の判断を避けてしまったことだ。「最高裁は、裁量行為(埋立承認)の職権取消(承認取消)もまた裁量行為であり、職権取消をした翁長知事の裁量権が尊重されるべきであることを見落としている」(武田真一郎成蹊大学法科大学院教授)。これらの「判断回避」「見落とし」こそが、「三権一体」下の最高裁の現実を示している。

11.17 集会レポート



【ヘリパッド取材班】名護市辺野古の新しい基地建設の現場や米軍北訓練場のヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）での抗議行動に絡んで10月17日に逮捕された、起訴、勾留されている沖縄平和運動センターの山城博治議長（64）に対し、接見をしている弁護士を通じて本紙がインタビューを行った。22日に質問を文書で渡し、同日書面へ回答を得た。山城議長は新基地建設やヘリパッド建設を強行しようとしている日本政府の姿勢に対して、「今こそ、酋長知事を支え、沖縄の将来を開くために、意を決して力を合わせよう。未来は、私たちの手でつくり出す」と国の強行に屈せず、運動を継続してくる重要性を強調した。

「未来は私たちのもの」

出さうなくらい感動し、力強さを感じている」とした。多くの抗議市民が逮捕され、山城議長の勾留が長期に及んでいることについては「許し難い弾圧である」と言わざるを得ません」と指摘した。今後の抗議運動

「13日夜にオスプレイが名護市安部に墜落した。」

「2012年にオスプレイの沖縄の配備が決定してから、沖縄県民はこぞって危険性を追及し反対してきました。現実には言

——山城議長が名護署に勾留されて
いる間の運動についてどう感
じていたか。

「連日警察の周辺に、仲間た
ちの激励がこたましています。
ありがたく、心強く感じていま
す。ただ運動の疲れもあるし、

「山城議長を含め多くの抗議市民が逮捕されたこと、山城議長長の勾留が現時点（22日現在）まで続いていること」の受け止めは。

対応してもらっていますので、病院への定期検査など、欠かさず診察してもらっています。経過は順調で、体力的にも至って元気です」

— 政府は辺野古の新基地建設など政策を強行に進めていくと

で、目のくらむような恐怖を感じないでもありませんが、今こそ翁長知事を支え、沖縄の将来を開くために、意を決して力を合わせましょう。

未来は、私たちのものです」

権力暴力に怒り／勾留、許し難い弾圧

いようのない怒りを感じます。高江にヘリパッドが建設された今、さらに墜落の脅威が県民の頭上を覆うと思つて居ても立つてもいられません。ぜひ引き続き、この無謀を極める恐怖の連鎖を止めるために県民の力を結

無理をしないでと思っていま
す。みんなの声から運動が、現
下の大量逮捕に屈せず、引き続
き力強く展開されていることを
感じます。仲間の皆さん本当に
ご苦労さん。そしてありがとうございます。また、肩を組み、抗議の声

「70日近く拘留し続けることの不当性は明白です。許し難い弾圧であると言わざるを得ません。けれどもそれだけに、仲間たちのさらなる力強い運動が求められていると感じています」

―体調はどうか。

みられる。現場で闘う人々、市民に伝えたいことは、「屈辱のヘリパッド完成式」という政府のベテンの儀式が開催されたようだが、それに参戦し、事が毅然と出席を拒否し、市民の抗議集会に公然と参加された。

12/24 琉球新報から

◆年末に「山城博治さんたちの早期釈放を求める会」（共同代表・山内徳信元参議院議員ほか）が山城さんらの拘留執行停止や接見禁止措置の解除を求めて活動を始めた。一月一七日の弁護士らの保釈請求に合わせて署名を提出する。

で、目のくらむような恐怖を感じないでもありませんが、今こそ翁長知事を支え、沖縄の将来を開くために、意を決して力を合わせましょう。

未来は、私たちのものです」

最後に鶴見沖縄県人会会長の金城京一さんから連帯挨拶。「今年の4月に役員で辺野古に行った。こんな美しい海を埋め立てるなんてとんでもないと思った。このホールに入って、暖房も入れずに熱気がすごい！」—金城会長はそう語ると、参加者に起立を促し、「ちばりよー仲里先生！」と声を張り上げた。会場からは、「ちばりよー金城会長」「ちばりよー県人会」の掛け声と笑い声が飛び交った。集会後は近くの居酒屋で懇親会。仲里さん、宮城さんも含めて20人超が集まり、交流を深めた。